今年も激戦、第２８回全日本選手権の行方は？

第 28 回全日本オリエンテーリング大会が京都市東山区で開催されるが、男女とも優勝の行方は全く分からない状態である。ディフェンディングチャンピオンの松澤か？それとも、チャレンジャー鹿島田浩二か。村越真も故障から復活し、若手も成長している男子は勝利の行方は全く見えない。女子は連覇中の金並由香の調整不安。それよりも、体力充分の若手塩田美佐か、最近好調の巧者志村聡子か。難易度の高くタフなテレインでベテラン高野由紀にチャンスありとの声もあり、団子状態である。

京都のテレイン、京大ＯＬＣ作成の大文字山のリメークは典型的な関西テレインであり、急斜面、複雑な地形、藪という３要素が技術的にも体力的にも要求を高くするであろう。従来、このようなテレインでは、地図の精度的な問題もあり、道を中心としたコースが多かった。しかし、最近は調査能力から藪を利用するコースが増えてきた。今回の地図もプロマッパーのペローラ作成であり、精度的には期待できる。

従って、ルートチョイス、藪の中の方向維持、細かいルート取り、アップに負けない体力などがポイントになると想像される。「急峻であるがためにルートチョイスの取り方はとても面白い」とペローラ氏も語る。このようなテレインではミスによるタイムロスが大きくなり、結果が荒れる可能性も秘めている。

関西のトップエリート、奥村理也は過去数回大文字を走っているが、「コンタが詰まっていて複雑な地形がある。あらゆる技術を必要とするだろう。ミスを抑えたレースが必要。場合によってはつぼりあいになるかも」と分析する。もちろん、同時にそれは、コースの技術的体力的要求を満たす選手と満たさない選手との差が大きくなることも意味する。

男子は村越が復活？

さて、男子に関しては、まず、ここ数年日本のオリエンテーリング界を引っ張ってきた現選手権者松澤敏行、元選手権者鹿島田浩二、前選手権者村越真の３人を中心に展開されるのは間違いないが、それぞれ不安材料を抱えている。

確かに、松澤は年間を通しても安定した成績を残し、ポイントランキングはトップである。しかし、秋の後半の公認大会は期待はずれと言わざるを得ない。秩父は５位。東日本は優勝したが、西日本で５位、早稲田も４位と不調である。成績の良くないテレインはいずれも急斜面である。そして全日本のテレインもある意味では似たような課題が要求され、松澤が苦手なタイプとも言われている。

多摩ＯＬの監督として、クラブカップ３連覇を果たした菅原琢氏は、「苦手を克服していれば別だが、松澤向けのテレインではない。鹿島田が有利ではないか」と分析する。

安定した結果を残している今年の鹿島田浩二は、体力的にはかなり良い調子と語る。最近は松澤の陰に隠れることが多いが、今年に入り調子を挙げてきているようだ。「オリエンテーリング的には調子が良い。全日本に向けての課題は集中力を出せるコンディションに持っていくこと。そういう意味ではこの３年間でもっとも良い状態」と意気込む。ただ、今年、一レースもエリートポイント大会を勝てていないのは大きな不安要素だ。

一方、２月に行われた早稲田大会で不安を解消することが出来たと自信を付けているのが村越真。昨年から多忙でトレーニングも充分ではなかった上に、年末の合宿で数針を縫うほどのけが。しかし、早稲田で見事復活、圧勝。

村越の強さは早稲田の『二子』や、京都の大文字のような、急斜面テレインにおいての細かいルート取りで発揮される。「最近自分が山で強いことを感じる。単純な登りはもちろん、負けるのだが、急斜面での微妙なルートプランなどで差がついて、結果に大きくきいてくる」と自己分析している。残り一ヶ月で９０分走りきれる体に持っていけるかが鍵となろう。

急峻なテレインで行われた早大 OC の表彰式。全日本大会を占う上で貴重なデータを示してくれた。

今年度の全日本が混戦と考えられる理由はこの３人とその他のトップエリートとの相対的な差が縮まっていると見られるからだ。特に注目されているのは、高橋善徳と篠原岳夫の９９年度卒の若手筑波勢である。高橋と篠原は学生時代筑波の２枚看板としてひっぱり、２年前の日光インカレではクラシカルでワン・ツーフィニッシュを決めている。

高橋は卒業後、世界選手権代表になるなど、成長が著しい。今年もエリートランキング５位と安定している。

「残り一月をちゃんと過ごせば結果は出ると思う。（松澤、鹿島田といった）他のトップ選手は意識してもしょ

うがない。ただ、大きな差はないと思う。相手が完璧なレースしたらしょうがないが、ちょっとしたミスしてくれれば勝てるレベルにはいる。また、京都で予想されるテレインは嫌いなテレインではない」と優勝に意欲を示す。体力的にも１月に４００キロこなすなど、順調に仕上がってきているようだ。

この高橋を今年上回る成績を残しているのが篠原。卒業後は高橋の陰に隠れていたが、今年はエリートポイント大会を２勝し、ランキングでも４位。昨年の全日本後の結果だけだと松澤に次ぐ２位のポイントである。面白いことに、松澤が勝てなかった埼玉秩父、西日本、早稲田では、篠原が上回っている。それぞれ、３位、１位、２位である。「山々しているところは速いと実感している。ルート選択が重要なコースなどで良いのかもしれない」と、似た要素が課題になると予想される京都での活躍が期待できる。

その他の選手を見ると、やはり世界選手権代表組の加賀屋博文、山口大助、安井真人などが挙げられるが、それぞれ不安要素を抱え、優勝は難しい。もう一人挙げるとすれば、今年ランキング７位に入っている紺野俊介が注目である。全日本リレーや、関東インカレ団体戦など６０分以内のレースでは抜群のタイムを残している。約６０分のレースであった早稲田でも３位に入っている。トレーニングが主に週末中心で不足しており、「６０分までは良いのだが９０分以上になると不安」である。

団子状態の女子

女子は本命不在の団子状態である。「皆目検討がつかない」といった声や、「ホントに分からない」といった意見が大半である。一つはテレイン的なところからつぼりあいになるのではないかという見方があるのと、もう一つは連覇中の金並由香の状態が見えない。というところにある。

実力から言えば、金並の調子の良いときに他の選手が勝つのはかなり難しいと言えよう。また、全日本といった重要なレースでは強く、実際現在も連覇中である。また、エリートランキングでも１位をキープしており、一見なんの不安材料もないように見える。しかし、実際には今年度の秋はレース数も少なく走っていても精彩を欠いている。

「少し中途半端な状態でオリエンテーリング」をしている金並の全日本の出来は当日になってみないと分からないといったところであろう。

ランキングから言えば、塩田美佐が最も有力ではある。秋に入ってからも筑波、東の優勝を初め、安定して上位に入っている。「最近いい加減になってきていて、流されてしまう」と技術的な不安を抱える。課題であるルートプランニングをうまくこなせれば、初優勝も近づく。

今年に入り注目されている選手はベテランの志村聡子である。ランキングは5位に入り、西日本では久しぶりの優勝を果たしている。夏に遠征しかなり海外でのトレーニングを積んだ成果があがっているようだ。

「最近調子の良いのは特に何があるわけでもない。何年もトレーニングをさぼっていたので、通常の状態に戻っただけ」。体のきれがないので取り戻したいと話している。過去最高の順位は3位であり、今年はそれ以上を狙う。

ランキングで現在３位の中村正子は故障によるトレーニング不足ではあるが、オリエンテーリング的には調子が良い。「本来の自分のオリエンテーリングではないスタイルに違和感を感じてはいる」が、走れていない分丁寧にやり、うまくいっている。今までは波の激しいオリエンテーリングであったが、最近は安定度が増していると言う。トレーニング不足の不安が解消できれば、有望である。

早稲田で秒差の２位になった渡辺円香有力視される一人である。「勝負弱さを背負っていると感じることもある」と語るが、ランキングでは４位に入る。

早大 OC 大会表彰式でルート解説する渡辺円香（まどか）

全体的に女子は抜きんでる選手がいない状態で誰が優勝するかは全く読めないといってもいいかもしれない。特にテレインに手こずる選手が多いと思われ、つぼりあいになる可能性が高い。このような視点でみた場合、今年好調であったこれら選手以外で、たとえば高野由紀、宮川祐子、宮本知江子といったベテラン勢が勝つ可能性も充分ある。

一方で、体力的にタフであるという点で見ると、早稲田でも優勝した番場洋子や、元選手権者の三好暢子も面白い。

男女ともに、誰にでも優勝のチャンスがある激戦と今年の全日本は言えるかもしれない。一方、この状況に不安を唱える見方もある。村越真はこの状況を「女子はつぶはそろっているが、抜きんでるだけの努力をしている人がいないのでは。また男子は暫く自分が（オリエンテーリングから）離れていて戻ってきても（早稲田で）優勝出来てしまうレベルでがっかりしている」と言う。このような見方を覆すような好レースが繰り広げられることが大いに期待される。

（山本英勝　hidi_o@yahoo.co.jp）